

# ふけはら

## Contents

特集	「ケアプランデータ連携システムが... 変える介護の未来」 —導入の現状と課題の検証—	2~3
研修会報告	.....	4
ブロック通信/部会委員会通信	.....	5
会員紹介	.....	6~7
事務局からのお知らせ	.....	8



# 特集 ケアプランデータ連携システムが変える

## 介護の未来

### 導入の現状と課題の検証

編集委員 前川義量

日本の介護現場は、少子高齢化に伴う深刻な人材不足と、それに相反するような膨大な事務作業の増大に直面しています。特に、居宅介護支援事業所とサービス事業所間で交わされる「紙」ベースのやり取りは、現場の生産性を著しく阻害する要因となってきました。こうした「紙文化」からの脱却を目指し、厚生労働省が推進するのが「ケアプランデータ連携システム」です。本稿では、システムの全容を詳細に解説し、最新のアンケート調査結果に基づいた各事業所の本音と課題を、客観的に分析します。

## 第1部 ケアプランデータ連携システムの全容と社会的背景

### 1. システムの概要と社会インフラとしての役割

「ケアプランデータ連携システム」は、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所の間でやり取りされる「居宅サービス計画書」や「サービス利用票・提供票」のデータを、オンライン上で電子的に共有する仕組みです。

これまで、ケアマネジャーが作成した書類は、郵送、FAX、あるいは手渡しによって届けられていました。受け取った事業所側は、その内容を自社のシステムに手作業で転記しており、このアナログなプロセスが「紙文化」として現場の重い負担となってきました。本システムは、介護保険の電子請求受付システムと同様に、国が信頼性を担保する社会インフラとして構築されており、長期にわたる安定的な運用が約束されています。

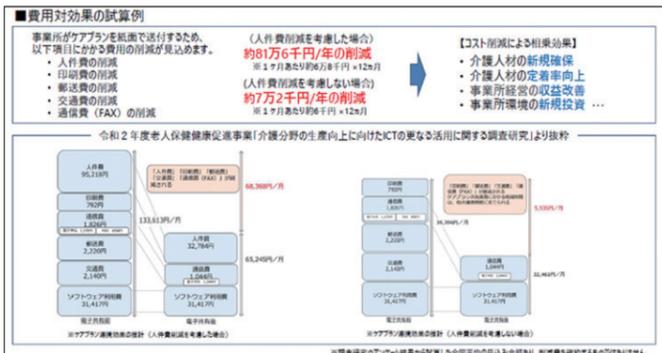
浮き彫りになりました。本アンケート調査は、質問票を一斉配布して実施したのではなく、兵庫県老人福祉事業協会が2025年秋に県内7ブロックへ個別に声掛けを行い、回答いただいたものを集計したものです。回答数は東播磨ブロックを中心に38件で、すべて有効回答でした。質問内容は、当該システムの導入の有無及びその理由、ならびに導入に対する感想です。内容と結果の詳細は以下の通りです。

- 業務の担い手：印刷、封入、FAX、共有といった事務作業の80%以上を、担当ケアマネジャー自らが行っていることが判明しました。
- 物理的な書類量：月間の提供票送付のために、1つの事業所で毎月2,000枚以上のFAX送信を行っているケースも報告されています。
- 2. 導入後の定量的効果(アンケート回答より) システムを導入した事業所への「前後調査(Before/After)」の結果、次のような改善効果が示されています。

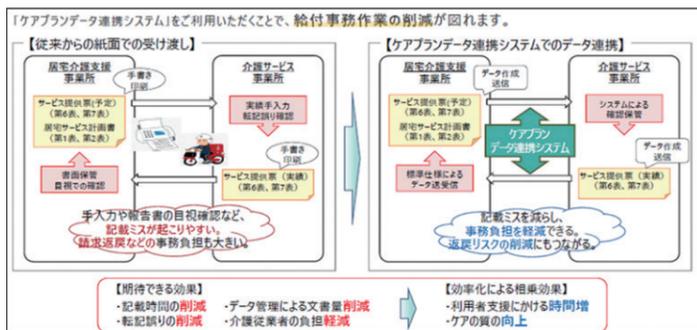
- 作業時間の削減：導入前は月平均52.4時間かかっていた関連作業が、システム導入により約3分の1に短縮されました。
- 具体的な短縮事例：約250社(333名分)の提供票送付作業に、従来は1日以上を費やしていた事業所が、導入後はわずか30分で完了したという極めて高い効果が報告されています。
- コスト削減：印刷代、郵送費、通信費などを合算すると、月額約13万4千円かかっていた経費が約半額まで抑制され、年間で約80万円のコストカットが期待できるという結果が出ています。

【表1 各施設が感じている効果と懸念点】

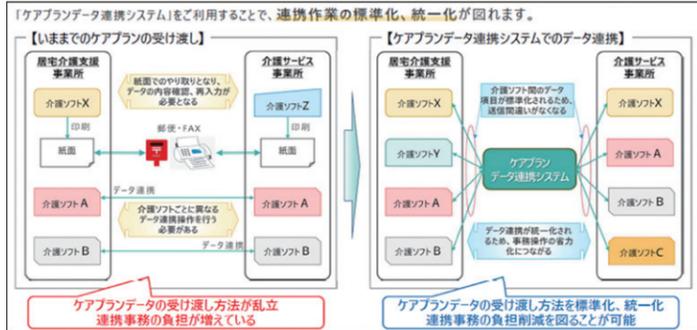
メリット(期待される効果)	デメリット(懸念・課題)
転記ミス・返戻リスクの撲滅：データの直接取り込みにより、手作業特有の入力ミスがなくなり、請求ミスによる返戻が削減される。	【片側導入】による二重管理：連携相手が未導入の場合、一部はデータ、一部は紙という二重の事務が発生し、一時的に負担が増える。
心理的負担の軽減：ミスの確認作業や、深夜に及ぶFAXの再送といった精神的ストレスから解放される。	初期設定の難易度：電子証明書のインストールやID確認など、導入時の手続きがやや煩雑であるとの声がある。
収益性の向上：介護報酬改定により、本システム活用が居宅介護支援費(Ⅱ)の逓減緩和(50件まで単価維持)の条件となり、経営改善に寄与する。	ライセンス料への抵抗感：年間21000円の費用を「高い」と感じる経営層が存在する(ただし、人件費削減効果を鑑みれば数日で回収可能との分析もある)。



【図3:費用対効果の試算例】(出典:公益社団法人 国民健康保険中央会)



【図1:システム活用によるデジタル化のイメージ①】



【図2:システム活用によるデジタル化のイメージ②】(出典:①②とも公益社団法人 国民健康保険中央会)

## 第2部 アンケート調査結果の詳細と現場の現状

システムの普及状況と導入効果を測るため、国や各自治体では詳細な調査が行われています。ここでは、モデル事業等で明らかになった定量的・定性的データを詳述します。

### 1. 調査の規模と実施状況(件数と属性)

兵庫県のモデル事業における調査報告によれば、令和6年9月時点で、同県内では382事業所が本システムを利用しています。全国的な導入率は令和6年7月時点で全事業所の4.3%、兵庫県内では4.9%と、依然として「普及の緒に就いた段階」にあります。

ある大規模な調査研究(令和2年度老人保健健康促進事業)では、ケアプラン共有に関連する業務の実態が

## 第3部 考察 令和7年度に向けた政策的転換点

アンケート結果と現場の声から導き出される最大の課題は、「地域内での面的普及」です。本システムは、自一人が導入しても効果が限定的であり、連携相手と共に「仲間づくり」をして初めて最大の価値を發揮します。ここで重要なのが、最新の政策動向です。「令和7年度介護分野の職員の賃上げ・職場環境改善支援事業」の実施にあたり、通所介護事業所等の要件として、ケアプランデータ連携システムの導入(または導入予定)が明記されることが検討されています(※厚生労働省の最新施策方針に基づく情報)。これは、国が「ICT活用による生産性向上を、賃上げの原資として直接的に結びつける」という強力なメッセージを発信したことを意味します。これまで「周りが導入していないから」と静観していた事業所も、今後は対応を迫られることとなります。

## 第4部 結論 介護を「心」と向き合う仕事へ

ケアプランデータ連携システムは、単なる効率化ツールではなく、介護職が「紙」ではなく「人」と向き合う時間を取り戻すための、不可欠な社会インフラです。

### 今後の展望とまとめ

1. 段階的移行の推奨：全ての連携先と一斉に始めるのではなく、まずは1~2箇所の主要な連携先からスタートし、数ヶ月の並行運用を経て拡大することが、混乱を避ける鍵となります。
2. 補助金の積極活用：介護ソフトの入れ替えが必要な場合は、ICT導入支援事業などの補助金を活用し、初期コストを抑えることが可能です。
3. 職域を超えた連携：事務スタッフの負担軽減が、結果としてケアマネジャーがモニタリングに専念できる環境を作り、ケアの質向上という好循環を生みます。

介護現場における生産性向上とは、単なる「人減らし」ではありません。テクノロジによって事務作業を「キユツと短く」し、それによって生まれた余白を、利用者との温かな対話や、専門性の向上へと再配分すること。それこそが、本システムが切り拓く介護の新しい当たり前(スタンダード)なのです。

### 参考情報

- 一般社団法人 兵庫県介護支援専門員協会 ケアプランデータ連携システム導入説明会 YouTube
- 老健局認知症施策：地域介護推進課 地域のケアマネジメント提供体制確保支援事業

## 阪神ブロック

●3月12日 第3回 施設長会・研修会  
 「採用から退職まで労務リスク徹底解剖」  
 講師:社会保険労務士法人ベスト・パートナーズ代表社員  
 株式会社BPコンサルティング代表取締役 コメダ行政書士事務所 米田憲司氏

## 東播磨ブロック

●1月22日 第5回職員研修会  
 「カスタマー・ハラスメント研修」～グレアム・カスタマー・ハラスメント対応のいろは～  
 講師:弁護士法人かねめ 弁護士 前田敏洋氏

## 西播磨ブロック

●3月6日 施設長・管理職研修会  
 介護DXと科学的介護で拓く「介護の未来」  
 講師:社会福祉法人ふるさと 理事長 北島淳朗氏

## 但馬ブロック

●12月9日 養護部会研修会(丹波ブロックと合同開催)  
 「ストレス解消! 心と体の元気が出る体操」  
 講師:ダンスインストラクター 藤原真紀氏

## 丹波ブロック

●12月9日 養護部会研修会(但馬ブロックと合同開催)  
 「ストレス解消! 心と体の元気が出る体操」  
 講師:ダンスインストラクター 藤原真紀氏  
 ●2月13日 デイサービス部会研修  
 「最後まで輝いて生きる 結びけあ」  
 ～その人らしさを大切にする支援の在り方～  
 講師:地域密着型特別養護老人ホーム千鶴園 看護師 三木昌代氏

## 姫路ブロック

●1月23日 1月度研修  
 「行政説明会 医療機関との連携に係る加算等について」  
 講師:姫路市監査指導課  
 「死にゆく人の心に寄り添うスピリチュアルケアとは」  
 講師:非営利一般社団法人大慈学苑代表 玉置妙憂氏  
 ●3月19日 3月度研修  
 「摂食嚥下障害の理解と安全な食事」  
 講師:姫路獨協大学 医療保健学部 森澤広行氏

## 淡路ブロック

●2月13日 事務職員研修会  
 「その人らしい生活を支える」～成年後見制度と意思決定支援～  
 講師:船越事務所 司法書士・行政書士 船越健司氏

## 部会・委員会通信

### ◎ 介護保険推進委員会

介護報酬改定の影響調査を実施・分析したものをホームページに掲載しております。又本調査に基づき厚生労働省と意見交換を行いました。(詳細は、かけはし122号外に掲載)

### ◎ サービス評価委員会

令和7年度サービス評価事業が終了しました。7月頃に報告書を発行する予定です。

### ◎ 介護人材確保推進委員会

今年度は1/21に『外国人介護人材確保・定着へ向けた研修会』を開催し、既に外国人介護人材を採用している施設による事例発表やグループワークによる情報共有(交換)等を行いました。また、昨年度に引き続き、介護業界をPRする広告を作成しSNS配信、小中高等学校へ向けて介護の仕事の魅力を伝える「出前授業」を継続して実施県内中学校1年生へは「楽々介護」、県内高校1年生には「わたしを叶える。」のパンフレットをそれぞれ配布しました。介護福祉士養成施設2校で「就職出前プレゼンテーション」も実施しました。

### ◎ 調査研究委員会

昨年度に引き続き、当業界の継続的な課題である「人材の確保と定着率の向上及び人材育成」をテーマに対応を実施しています。今年度はアンケート調査で明確になった課題対応のため「キャリアパス」「人材育成計画」「新規採用者育成計画」等について具体的に県老協モデルを策定のうえ全施設に情報提供し課題対応につなげます。これまでの取り組みをまとめて、報告書を作成し、ホームページへの掲載を予定しています。

### ◎ 編集委員会

令和8年度も「かけはし」は3回発行予定です。会員施設の新たな取り組み等の情報をお寄せください。特集記事のテーマも募集します。

### ◎ ケアプラン委員会

ケアプラン基礎研修会の第1回目は10月21日に実施し、第2回目は12月12日に実施しました。

### ◎ 研修委員会

【今年度開催した研修】①生産性の向上セミナー(10月30日)、②人生の最終段階に向けての県民フォーラム(11月11日)、③人生の最終段階における対応向上研修(12月5日)④認知症介護基礎研修(10月22日)⑤施設長研修会(2月5～6日)

【配信した法定研修】A.プライバシーの保護の研修、B.倫理・法令遵守に関する研修、C.従事者に対する医療に関する研修、D.精神的ケアに関する研修、E.高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止に関する研修、F.身体拘束の排除の取組みに関する研修

※次年度も、今年度と同様の法定研修をブラッシュアップして配信しますので、是非ご利用ください。

### ◎ 養護部会

1月29日に「どうなる?どうする!これからの”令和な養護老人ホーム”とは」と題して、職員研修会を開催しました。講師としてカトリック聖ヨゼフホーム平岡総合施設長をお招きし、事例検討を通して、これからの養護老人ホームの役割や機能を学び、支援の方向性と手がかりを分かち合うことができました。

### ◎ 軽費・ケアハウス部会

令和8年度も軽費・ケアハウスの現状と課題に目を向け、研修会の企画や調査を実施したいと思いますのでご協力をお願いします。

### ◎ デイ部会

時代の変化を見据えた研修会を企画して参りますので、調査等のご協力をよろしくお願いいたします。

### ◎ 地域サポート施設推進委員会

12月17日、研修会を実施しました。県から「令和8年度認定施設募集」に関する説明が行われ、あわせて認定施設による活動事例発表および参加者を対象としたグループワークを実施しました。

## 介護職員等の人生の最終段階における対応向上研修会

令和7年12月5日(金)開催 場所 Web開催

大阪暁明館病院がん看護専門看護師、井関千裕氏による「人生の最終段階に向けての意思決定支援のポイント」と題し、良い看取りのための人生会議(ACP:アドバンスケアプランニング)と、高齢者や家族とのコミュニケーションのヒントについて講演があった。

ACPは、もしもの時のために、自身が望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取り組みのこと。介護に携わる私達はACPコミュニケーションについて正しい知識・技術や態度を備えたいうえで、利用者の意思・価値観を尊重した支援を行う必要がある。辛い時はチームで共有する等、医療・介護者自身のセルフマネジメントも大切である。

ACPはタイミングが難しく、1年以内に亡くなって驚かないならスタートすべき。早すぎても曖昧で役にたたないが、遅すぎると正しい判断ができなくなる。ACPの本質はコミュニケーションであるが、正しい情報を伝えれば相手は合理的な意思決定ができるとは限らない。悪い知らせから目を背けることは人間の妥当な心理学的対処法であり、疾患の重症度が高まるにつれて現れやすい。高齢者とのコミュニケーションのポイントとして、情報は短く、具体的に伝え、相手がどれだけ理解しているかを確認する。



編集委員 浅井愛子

井関千裕氏

## 施設長研修会

令和8年2月5日(木)6日(金)開催 場所 メリケンパークオリエンタルホテル

令和8年2月5日、6日、神戸メリケンパークオリエンタルホテルにおいて、百十一名の参加のもと施設長研修会が開催された。

一日目は、まず当会 藤澤徹会長による開会挨拶、県老協の活動及び国や県への陳情などの報告があった。

次に講演1として株式会社グローム代表取締役社長 岡本純子氏による「人を動かす世界最高の話し方」女性が長く働き続けられるような職場をめざして」をテーマに、コミュニケーションは科学であり、コミュニケーションは才能ではなく、教育・訓練で上がっていく。話し方や笑顔でより良いコミュニケーションが取れイメージアップにつながることを学んだ。

続いて行政説明1として兵庫県福祉部高齢政策課長 石井輝昌氏より「高齢者の安全確保の推進について」、兵庫県福祉部総務課法人指導官 三木水奈子氏より「社会福祉法人の指導監査について」と題し、新たな補助金についての情報提供や法人運営において気を付けるべき事柄について説明を頂いた。



編集委員 植木直子

岡本純子氏

吉田実盛氏

最後に講演2として鶴林寺住職 畠山学院教授 吉田実盛氏より「人に寄り添うということ」行動と心層の間で」をテーマに、教師(きょうかい)という役割を通じて、仏事に心からのありがたさを感じることで人と寄り添うことがうまれる、このことは癖の中でも外でも同じであるとお話を伺い、介護の仕事に通ずる部分も多くあることを学んだ。

二日間を通して、AI時代においてもコミュニケーションは最大の武器であることを再認識し、また知っておくべき規則や法制度の理解を深め、利用者の心に寄り添うことの大切さを改めて考えさせられる有意義な機会となった。

特別養護老人ホーム泉の杜は、平成16年に姫路市で初めてのユニット型特養として開設されました。開設時の利用者様の平均介護度は3.1でしたが、令和7年末には4.2と大幅に介護度が進んできております。そのため泉の杜では重度化が進む利用者様の終の棲家として選択される「看取り介護」の体制強化を図っております。

泉の杜の看取り介護は、日々のケアから汲み取れる利用者様の意思やご家族の思いを多職種で共有連携しながら、可能な限り普段通りの安心した環境の中で自然な終末を迎えて頂くことを目標にしております。そのためには医療との連携は不可欠です。現在看取り期に入られた利用者様のバイタルチェックを毎日医師に



報告して全身状態の確認とそれに応じた指示を受ける体制を整えております。この様に介護と医療の両輪で利用者様の終末を穏やかに過ごしていただけるよう今後も支援していきたく思っております。

## 特別養護老人ホーム 泉の杜

### 姫路ブロック



### 社会福祉法人再命会 特別養護老人ホーム泉の杜

施設長名 宮本 智恵子 定員数 70名  
 住所 〒679-2121 姫路市豊富町神谷3041-20  
 TEL 079-264-8170 FAX 079-264-8171  
 info@zuminomori.com  
 併設事業 短期入所生活介護 通所介護  
 居宅介護支援センター

特別養護老人ホームウエルライフ西宮は、西宮浜マリナパークシティの医療福祉ゾーンに立地しており、ゆったりとした環境と、目の前には穏やかな海と新西宮ヨットハーバーが広がり絶景を楽しむことができます。

当施設は、「安心・安全・明るい家が」を理念に掲げ、ご利用者にとって安心して暮らせる場所、安全に暮らせる環境、そして明るく温かいわが家のような施設であることを全職員が念頭に置き、ご家庭と変わらない温もりの中で笑顔あふれるよう日々のケアにあたっております。

当施設では、楽しみながら心と体を元気にする音楽療養コンテンツを取り入れ、音楽体操や口腔機能トレーニングなどを通して体力維持や嚥下機能の向上を



図っております。また、アートセラピーでは、創作や色彩に触れながら感性を刺激するひと時を提供しています。

今後より良いサービス提供に努め、「ここで良かった」と感じていただける施設を目指していきたいと思っております。

## 特別養護老人ホーム ウエルライフ西宮

### 阪神ブロック



### 社会福祉法人ウエルライフ 特別養護老人ホーム ウエルライフ西宮

施設長名 福本 梨奈 定員数 75名  
 住所 〒662-0934 西宮市西宮浜4-15-3  
 TEL 0798-32-1115 FAX 0798-32-0115  
 tokuyou@welllife.or.jp

養護老人ホームさくら苑は、淡路島の南部に位置しており、兵庫県最南端の老人ホームです。施設は風光明媚な福良湾を臨む高台に建ち、緑豊かな木々に囲まれ陽当たりのとても良い環境にあります。

当苑の主な事業は養護老人ホームですが、介護保険の短期入所生活介護や市独自事業の生活管理指導短期宿泊事業も併設し、生活困窮者や虐待・DV保護等の緊急入所や介護保険対象外の高齢者も迅速に受入れできる体制を整え、地域で暮らす高齢者のセーフティネットとしての役割を担っています。

また、施設の立地が海沿いということもあり、現在は南海トラフ地震等に備えた自然災害時における避難・炊き出し訓練やBCP



のブラッシュアップに力を入れています。

法人基本理念である「地域に親しまれ信頼される福祉事業所」をモットーに、地域に必要とされ、入居者の皆さんが心穏やかに充実した生活が送れるよう日々努めています。

## 養護老人ホーム さくら苑

### 淡路ブロック



### 社会福祉法人淡路島福祉会 養護老人ホームさくら苑

施設長名 中川 まゆみ 定員数 100名・短期入所4名  
 住所 〒656-0503 南あわじ市福良丙22番地4  
 TEL 0799-54-0421 FAX 0799-54-0495  
 sakuraen@sirius.ocn.ne.jp  
 併設事業 特定施設入居者生活介護 短期入所生活介護  
 訪問介護

デイサービスセンターほほえみは香美町香住区の東寄りに位置する佐津という地域にあります。平成15年にグループホームがやきとの併設型施設としてオープンいたしました。海や山に囲まれた地域で近くには松葉ガニで有名な柴山香住漁港もあります。ご利用者の送迎には日本海を眺めながらお越し頂く方も多くです。

ご利用者へのサービス内容としては、お話の好きな方、手先の器用な方、歌の好きな方など様々です。それぞれにあった環境や物品カラオケセットなどを提供させて頂いています。色紙や画用紙などを使った季節感あふれる物作りにも力を入れていきます。また身体機能の維持向上をめざし午前と午後30分程度の体操を実施し健康で楽しいひとときを過ごしていただいています。

レクリエーションは各職員がそれぞれ工夫し身体を使うもの・クイ



ズなど考える力を引き出すものなど様々な内容で実施しています。また厨房で作る食事や手作りおやつも皆さまに好評です。

また、区内の中学生や小学生の訪問や大正琴、歌のサークルの訪問もあり地域との連携も大切にしています。

今後ご利用者と職員の関係も大切になら共に楽しく、ご利用者の特徴である「その方らしさ」を活かせるサービスを目指してゆきたいと思っております。

## デイサービスセンター ほほえみ

### 但馬ブロック



### 社会福祉法人香美町社会福祉協議会 デイサービスセンターほほえみ

施設長名 元藤 涼子 定員数 29名  
 住所 〒669-6402 美方郡香美町香住区無南垣97  
 TEL 0796-38-1515 FAX 0796-38-1516  
 kasumi@kami-wel.jp  
 併設事業 認知症対応型共同生活介護

事務局からのお知らせ

# 祝「最優秀賞 文部科学大臣賞」

令和7年10月25日(土)26日(日)に第35回全国産業教育フェア福島大会 第12回全国高校生介護技術コンテスト(主催:文部科学省、福島県、福島県教育委員会等)が開催されました。第13回兵庫県介護コンテスト、第12回介護技術コンテスト(近畿大会)を勝ち上がった兵庫県立龍野北高等学校(山田優和さん、塚本菜々美さん、竹内綾華さん)が、近畿地区代表として出場され、学校で学んだ確かな介護技術力、利用者に寄り添った心地よいコミュニケーション力を発揮し、近畿地区の学校として初となる「最優秀賞 文部科学大臣賞」を受賞し、日本一に輝きました。



竹内綾華さん 塚本菜々美さん 山田優和さん

## 編集後記

先日、とある特別養護老人ホームが利用者さんたちの「推し活」を後押ししているという新聞記事を読みました。憧れの演歌歌手やサッカー選手の活躍にときめく経験が心身の健康につながるそうです。認知症と難聴の症状があつて施設での生活に中々馴染めなかった女性が、「推し活」で本来のおしゃべり好きな性格を取り戻し職員さんとの信頼関係も強まったとのこと。一方的に応援するだけでなく、SNSを通じて本人と交流できたり、条件が整えば配信ライブを施設で視聴出来たりというのが今の時代の良い所ですね。さて、「かけはし」は来年度も会員の皆様に伴走する記事を書かせていきたいと思ひます。ご協力よろしくお願ひいたします。

## 県老協加入施設数

R8.3.1現在

	特養	養護	軽費	ケアハウス	デイサービス	計	
会員	阪神	67	5	0	20	62	154
	東播磨	70	6	1	19	73	169
	姫路	41	3	0	8	39	91
	西播磨	28	5	0	2	33	68
	但馬	25	3	0	6	35	69
	丹波	11	3	0	3	10	27
	淡路	21	4	0	2	18	45
	計	263	29	1	60	270	623

※ 賛助会員 1事業所(内訳:団体)